

## 熊本県に見舞金と熊本市に救援物資を送付

杉並区は、4月14日以降大きな地震と余震に見舞われている熊本市に対し、2トン貨物車2台と区防災課職員が運転するワゴン車に、飲料水やアルファ米などの救援物資を積載し、現地に向けて出発しました。また、19日午前中に、区からの見舞金として100万円を熊本県東京事務所の渡辺純一所長に届けました。さらに、区議会からも見舞金を準備しているほか、区役所や区民センターなどの区立施設に日赤の募金箱を設置し、区民や区職員に募金を呼びかけていきます。

19日午後5時、区長をはじめ多くの人が見送る中、熊本県熊本市の「うまかな・よかなスタジアム」に向けて出発しました。熊本地方を震源に発生した大きな地震は余震を伴い、阿蘇地方・大分地方に拡大しています。また、余震の回数が多いのが特徴で避難の長期化が懸念されます。こうした中、熊本県知事からは、救援物資の供給をマネジメントも含めて求めています。杉並区から救援物資として届けるのは、熊本市からの支援要請に基づく、アルファ米5,000食とクラッカー11,060食、汁物4,000食、飲料水2Lを1,890本、箱ティッシュ2,500箱、アルコール消毒800本になります。いずれも、首都直下地震などに対して備蓄していたものです。

杉並区では、これまで「災害時相互援助協定」を締結している自治体の支援を積極的に行ってきました。協定相手の一つである新潟県小千谷市は、中越地震に見舞われました。また、福島県南相馬市は、東日本大地震で大きな被害を受け、地震発生の翌日には救援物資を届けた経験を持ちます。熊本県や県内の自治体と杉並区は、直接こうした協定などの関係は持たないものの、災害時の自治体間の支援が、どれほど被災した地域住民を勇気付けることになるかは、これまでに多くの経験をしてきました。

この救援物資の送付も、この経験があったからこそその決断となりました。本日午後5時に出発した救援物資は、1,200kmの距離をおよそ20時間かけて届けられます。2トントラック2台は、区内に事業所を置き、災害時の協定を締結している株式会社安田商会と一般社団法人東京都トラック協会杉並支部が用意し、杉並区民の被災地を思う気持ちも届けます。



【問い合わせ先】危機管理室防災課 電話3312-2111 (代表) 内線3601